

岡崎の学校教育に期待すること

岡崎市教育委員会委員
弁護士

櫻井 敬子 氏



教育随想

学校教育、そしてそれに携わる先生の影響は、可塑性に富む子供たちにとって、人格形成、人生の進路を決定づけるほどとても大きなものがあり、私自身もそうでした。

私は、小学三年から中学一年までをイギリスで過ごし、うち小三〜小四はイギリスの現地公立校、小五〜中一はイギリスにある全寮制の私立の日本人学校、帰国後は、東京の私立女子校に中一〜高二と通いました。イギリスの現地校では、イギリス人だけではなく、私のような日本人のほかに様々な国籍の人がおり、家に遊びに行くと、習慣や文化も色々。能力別クラス編成、勉強する科目、修学旅行、給食（宗教上、食べ物の制限がある子もいるため、給食を選択しない子は、弁当持参か自宅へ食べに帰っていました）等の選択（希望）制など、学校教育も多様性を許容し、個性を尊重していました。その後の全寮制の学校や私立女子校も、生徒の個性を重視し、生徒の自主的活動が盛んで、今でいう

「総合的な学習の時間」が多い学校でした。こうした、「多様性」「個性」の尊重という考えは、私の人格形成の根幹をなしています。また、先生にも恵まれ、異国の地で何も分からず心細かった私に優しくしてくださったJ先生（ギターの弾き語りもお上手でした）、親元を離れた寮生活で母親代わりだったJ先生、進路相談のY先生（現在、弁護士をしているのも、そのときのアドバイスのお陰です）など、先生方には愛情を持って、熱心にご指導いただきました。

岡崎でも、娘が通う小学校で、教育委員として訪れる学校で、先生方が愛情を持って熱心に取り組む姿を拝見し、うれしく思っております。また、岡崎の学校教育は、カリキュラムがしっかりしており、感心するとともに、そうした教育を受けていない私からすると羨ましい限りです。私は、小三〜四年の日本の学校教育が抜けていますので、基礎的な部分の欠如を感じることがあります。イギリスでも、九九や読み書きができ

ないなど、基礎的学力不足の児童が多数いました。

個性の尊重といっても、最低限の基礎があつてのこと。その意味で、「ゆとり教育」というのも色々と考えさせられます。基礎と個性、その両者のバランスが大切であり、その加減は先生の力量にかかっています。しかも、子供という生身の人間が相手である以上、その時々の子供たちの反応や対応を見ながら、それに合わせた指導をしなければなりません。大変なことですが、愛情と情熱をお持ちの先生方ならできることと期待しております。

(つづいてい)



平成21年2月1日

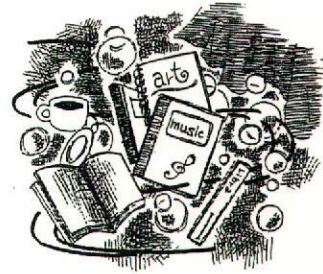
2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想 1
岡崎市教育委員会委員
弁護士
櫻井 敬子氏
- この人に聞く 2
りぶらサポータークラブ代表
山田美代子氏
- 羅針盤 2
緑丘小学校長
大久保幾三
- ふれあい 3
城南小 石原 理恵
美川中 川本 祐二
- 特集 4
健全な食生活をめざして
学校教育における食育活動
- お知らせ 6
- フォト・ヒストリー 8
本の供養と感謝の会
(図書館祭) (昭和49年)
- この本を 8

ふるさとシリーズ この人に聞く



人と情報の交流の場に

りぶらサポータークラブ代表

山田 美代子 氏

すっかり日が暮れたころ、まだまだ来館者でにぎわう図書館交流プラザ・りぶらにある一室を訪ねた。

「りぶらがオープンして以来、いい具合に人が流れているようです。図書館をふだん利用していない方も、とりあえず足を運んでくださるようになり、ここを起点に周辺の街とも交流できているのではないのでしょうか」と、笑いながら話す山田さん。

現在、りぶらの企画にかかわりながら、二十五年前に竜美丘小で始めた読み聞かせも幅広く展開している。「子供たちとのコミュニケーションがととても楽しみでした。すぐに本を読むのではなく、季節の話題などで、



目の前にいる子供たちとやりとりできることが、わたしの楽しみの一つになりました」と、始めた当時の思い出を懐かしそうに語った。
素直な子供たちの反応を楽しむ日々。自然と子供向けの読み物を探しに図書館に足を運ぶことが多くなったという。
「七年ぐらい前に『新しい図書館が建てられるかも知れない』という話がありました。そこで、自分たちの要望を聞いてもらおうと、図書館側に働きかけてみました。図書館側も、市民の考えを取り入れようと考え始めた時期だったようです。」
早速、「おかげさき図書館を考える会」を立ち上げ、二年間をかけて、各地の図書館を視察したり、図書館の専門家の話を聞いたりした。
「この二年間で、図書館の奥の深さを実感することになりました。図書館とは、単に本を読む場所ではなく、そこにある本を利用すると、自分の悩みを解決したり、自分の情報を広

げたりできる場所なんだと思うようになりました。」

図書館のもつ魅力にふれ、山田さんはこれを市民に知らせない手はないと考えた。同時に、市民の声を図書館に伝えることで、自ら橋渡しをしたいと思うようになった。

そこで、五年前に「図書館まつり」を開催し、図書館に多くの人の足が向くようにした。まず、講演会を開き、聴衆が興味をもったテーマで図書館を利用して、調べ学習を進める場を設けた。そして、まとめたレポートを発表することにした。次に、ポルトガル語や中国語での読み聞かせを行った。

「図書館というのは、どんな方も利用できる場所だし、来てほしい場所です。りぶらで言えば、子供の図書室がとて明らかなったり、中高生向けのコーナーができたりました。市民の立場で提案してきたことが、今、かたちとなって表れているのをうれしく思います。子供たちには、図書館を利用して、直接体験できないことを本の中で体験できる喜びを味わってほしいと思っています。」

夢多き山田さんと出会い、「人と情報の交流の場」として、りぶらの可能性を感じた。素敵な人や本と出会い、ぶらりと立ち寄りたくなった。

氏名 やまだ みよこ
生年月日 昭和二十年十一月九日
住所 岡崎市竜美台一丁目



言語活動のすすめ

緑丘小学校長 大久保幾三

「算数や理科で言語活動をやるって、どうということなのか。」

新学習指導要領が告示された際、こうした疑問が現場で聞かれました。しかし、私は逆で、やっとここに気づいたかと思いました。

考えてみると、学校での生活、中でも学習活動では、「言語」は実に大きな軸となっています。言語を発することなしに授業は考えられません。言葉を通じて問題を提起し、考えを促し、理解を導き、了解につなげています。こうした指導的な言語活動は、教師の指導の生命線です。学びに不可欠であり、教師の言語活動は日々、極めて盛んに行われています。翻って、子供たちの言語活動の実態を考えてみるとどうでしょうか。残念ながら、充実しているとは言えないのではないのでしょうか。

はなまるのわたし

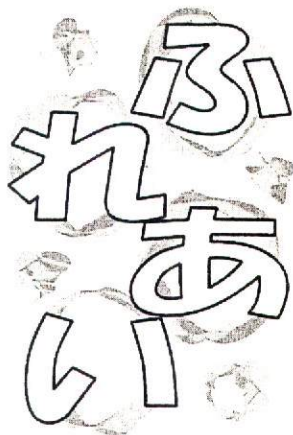
城南小学校 石原 理恵

二期、「はなまる会議」(本学級の学級会)で、城南カーニバルでのお店作りについて話し合った日、二年生のA子は、はなまる日記に発言を書いた。このタイミングだと思いい、「みんなのことをよく考えたい意見だね」と、励ましの朱書きを入れた。次の会議の前に個別に対話を行い、「店長さんばかりに任せてはいけない」というA子の考えを認め、自信をもって発言するよう促した。さらに、A子の意見を初めに取り上げ、それを起点に話し合いを続けるよう司会団と打ち合わせを行った。



「はなまる会議」当日、勇気を出して発言するA子がいた。そして、そのA子にこたえるように、ほかの子たちも、「いいと思います」という温かい返

事や、「A子さんに付け足しで、みんなで協力して仕事を分担したほうがいい」と意見をつなげていった。その日の日記に、「今日のわたしは、はなまるでした。わたしの意見にみんなが返事をしてくれてうれしかったよ」と、A子も自己有用感を抱いた感想を書いていた。



心を一つに

美川中学校 川本 祐二

議員のA子が、わっと泣き出した。三日間の合唱練習停止をクラスで決断したときだ。八十回の練習を目標に、順調に取り組んできたクラスにとって、大きな挫折だった。「どうすればクラスがまとまり、心を一つにして歌えますか。」



な思いを込めて伝える私に、A子はうなずき、一度きりの本番を楽しむかのように教室を後にした。

A子の切実な相談に対し、私は、合唱以前に普段の生活をきちんとすることが大切だと伝えた。A子を中心にリーダー会が開かれた。「まず、緩んでいた清掃活動を見直して、無言清掃を徹底しよう。」A子たちの呼び掛けにこたえ、生活の見直しに取り組み、けじめのある生活を取り戻せた。そして、いよいよ練習再開。彼らの声量は確実に増していた。が、まだ表情は硬い。「みんなで手をつないで輪になって歌おうよ。ほら男子も一緒に。」A子の提案に照れながらも、みんなの表情は緩み、心を一つにした歌声へと変わっていった。

そこで、今後、子供たちの学習の中に言語活動を大いに取り込んでいく上で大事にしていきたい点をあげてみたいと思います。

まず、国語科では、言語学習という立場から、言語活動の基礎力を着実に指導していく必要があります。

次に、他の教科では、その教科で学ぶ内容に迫るために、言語活動を生かしていくという立場で取り組んでいきたいものです。例えば、理科では、子供たちの発見や発想を、記録・考察・発表・検証などの言語を用いた活動として練り上げ、それを通じて理科的な見方・考え方に磨きをかけるのです。数学でいえば、単なる計算ではなく、操作活動を取り入れ、その整理や立式の説明、ほかの解き方の探究など、言語活動を取り込む場はいくつも考えられると思います。また、こうしたとき、その教科の用語も積極的に学べます。

言語活動を取り入れる際の留意点の最大なのは、言語活動が生きて働く実感できる場にあることです。昨秋の本校学芸会では、二年生が上演する午後の来賓席がにぎわいました。生活科でゲストティーチャーに出した「子供からの招待状」がとても大きな力を発揮したのです。

健全な食生活をめざして



学校教育における食育活動

▲ 地域の方を招いて、地元の食材を使った「こんにゃくづくり」(恵田小)

ここ数年、食の安全・安心を脅かすような深刻な問題が多発している。子供たちが健全な食生活を送るためにも、教育現場での「食育活動」が必要不可欠になってきている。各学校でも、子供の食に対する正しい知識を深め、健康で豊かな食生活を送ることができるよう支援する様々な活動が行われている。

市内の学校では、栄養教諭・学校栄養職員が各教室を回って、朝食の大切さや栄養のバランスなど、専門的な内容を授業形式で指導している。また、家庭科の授業や生活科のゲストティーチャーとして招かれるなど、授業で食育を取り上げる例もある。食の安全について総合的な学習の時間のテーマとして取り上げ、年間を通して食について深く学ぶ実践もあった。

全校集会や学校保健委員会など、学校全体で食を取り上げ、啓発を図る取組も多い。また、委員会活動の一環として、「残菜ゼロ」を呼びかけたり、昼の放送で岡崎の食材や料理を紹介したりして、食への関心を高めている例もあった。

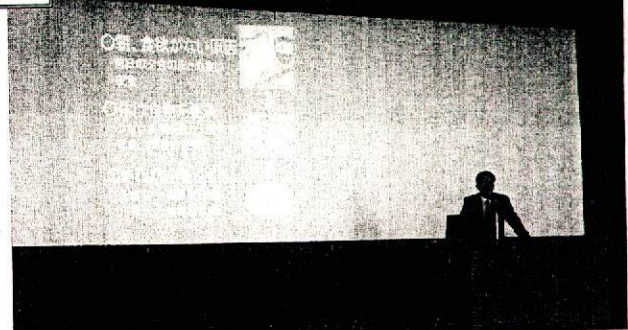
校内だけでなく、地域の方を交えた食育に取り組み試みも増えてきている。夏休みに、地域の方と一緒に地元の食材を使った料理づくりを行う「地産地消」につながる活動を行っている学校もある。「朝食の試食会」を催して、保護者に食育を啓発する学校もあった。

岡崎市でも「食育メッセ」「食育推進ボランティア」などの活動を中心に積極的に食育に力を入れている。こういった制度も活用しながら、今後も各学校で工夫した取組が行われることを期待する。

集会



▲ 児童保健委員会での「朝ごはん元気大作戦」集会(六ツ美南部小)



▲ 全校集会での「朝食の大切さ」指導(岩津中)



授業

▲ 学級活動での学校栄養職員の食育指導（緑丘小）



▲ 食事のバランスを考える家庭科の授業（東海中）

地域との連携



▲ 夏休みに親子で取り組んだ「親子で元気な朝ごはん作り」（六名小）

委員会活動



▲ 委員会で取り組んだ「残菜ゼロ運動」（根石小）

岡崎市の取組



▲ 「食育メッセ」に参加する親子

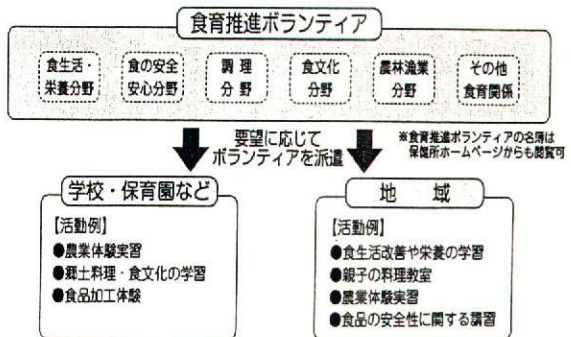
私がなぜコンテストに出ようと思ったかという、みんなに野菜をおいしく食べられる方法を教えてあげたかったからです。私は、出てみてとてもいい機会になったので、よかったと思います。大阪のコックさんにもいろいろなアドバイスももらって参考になりました。自分にとっては、本当にいい機会だったと思います、とてもうれしい一日になりました。

宮崎妃奈子（梅園小六年）

〈食育メッセ参加者の声〉

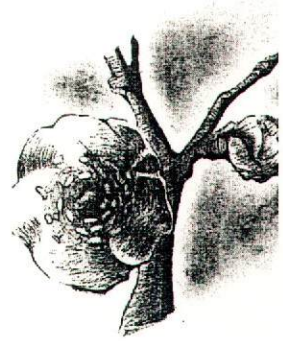
四十分間という限られた時間の中で、料理をつくり上げたという自信ができたと思います。子供たちが、少しくましく見えました。コンテストの日が、子供たちにとっては、ある意味真剣な試合のようでしたが、レシピを作成して申し込んだ時からこの日までの「ふれあい」が、いつもより充実した「食育」だったと思います。貴重な体験であり、家族の楽しい思い出になりました。

宮崎 規予（保護者）



▲ 市役所生活衛生課が推進する「食育推進ボランティア」制度（「市政だより」より）

お知らせ



● 教育最新情報

○ 授業改善委員会の取組

今年度、新設された授業改善委員会が、一年間の研究内容を二種類の冊子にまとめた。

・「活用する力を育む授業改善への提言2」

全国学力・学習状況調査の結果を本市独自に分析し、本市の児童生徒の学力の実態を把握するとともに、授業改善への提言をまとめた冊子である。本冊子には、次のような特色がある。

※「提言1」については、昨年度教育課程第一委員会から発行されている。

①本市児童生徒の学力分析を、学習指導要領の領域や評価の観点別に、昨年度との比較を行っている。

②調査問題のうち、正答率が低い問題を「課題となる問

題」として取り上げ、誤答の傾向や今後の指導の課題をまとめている。

③国語と算数・数学における授業改善への提言が、昨年度の指導例に加えてまとめられている。特に、小学校四年生から中学校二年生までの指導例が提案されている。

本冊子については、小学四年生以上の全学級に、中学校については、国語と数学担当の全教員に配付した。(十二月)

・「新学習指導要領の移行措置に向けて」

小学校では平成二十三年度、中学校では二十四年度からの新学習指導要領完全実施に伴い、可能なものについて来年度から先行実施される。この移行期における指導内容をどのようにしたらよいか。こうした学級担任の要望に応え

た一冊である。

本冊子は、年間指導計画の再編表とともに、次のような内容が掲載されている。

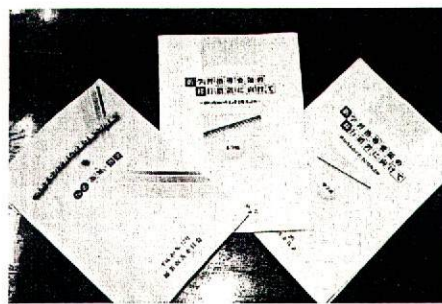
①それぞれの教科ごとに、最初に「改訂のポイント」の項目を置き、その中で改訂の概要、学習内容の改善・充実点が明記されている。

②「新学習指導要領で授業は変わる」と「言語力の育成・活用の重視」の項目が設定されている。「こう変わる」では、新学習指導要領のねらいに沿った授業とはどのようなものであったか、教科指導員を中心とした委員によって、分かりやすい形で授業イメージが提示されている。また、「言語力育成」では、各教科で言語力育成をどう取り入れるか、解説されている。

③年間指導計画表では、現行の指導計画をもとに、平成二十一年・二十二年・二十三年に分けて、加除する内容と、どの時期で行うかが明示されている。本冊子については、二月中旬に、市内全小中学校の教員に

配付される予定である。

いずれの冊子も、本市の教員によって、執筆・編集されたものである。目の前の子どもたちのために、これらの冊子を最大限に活用し、各学校の実態に即した授業改善を積極的に進めてほしい。



○ 小学校英語活動

今年度から全小中学校で英語DVDを活用するとともに、八小学校についてはパイロット校に指定し、英語活動の実践に取り組んできた。

毎日十分程度のDVD視聴については、視覚に訴えながら、繰り返し英語表現にふれることができるという声が多かった。

これを受け、小学校英語教育研究委員会は、二〇〇九年度版として、新たに約三十本のDVDを制作し、来年度からのより一層の充実を目指している。

また、英語活動の授業について、パイロット校への調査では、次の点で効果があるという声が多かった。

・ALTと小学校英語補助者との協力で、スムーズに授業展開ができる。

・週一回の授業の実施により、英語に対しての抵抗感がなく定着が進んでいる。

・学んだ英語を使って自由に会話をする時間を取り、子供たちは自信を持って発表できている。

多くの子供たちは、授業に楽しんで参加しており、英語に親しむという意味では、成果があった。しかし、今後はその楽しさの質が問われてくるとの指摘もある。

パイロット校での実践を参考にして、来年度も、「英語を話せるおかざきっ子」を目指し、各学校で一層の充実を図りたい。

●表 彰

◆第五十二回日本学生科学賞

内閣総理大臣賞(全国一)

竜海中 三年 藤原 栞

入選

南中 一年 羽根測高弘

◆全国こども科学映像祭

(中学生部門)

文部科学大臣賞

東海中 二年 内田 智文

優秀賞

福岡中 パソコン部

(小学生部門)

優秀賞

竜美丘小 科学部

佳作

六名小 三年 杉山 杏那

井田小 六年 津坂 啓太

生平小 六年 伊藤洸太郎

伊藤はるか 足利 聖

奨励賞

井田小学校

◆学生(子ども)映画祭IN指宿

優秀賞

羽根小 五年 唐沢 昇汰

堀田 大

入賞

生平小 六年 伊藤洸太郎

伊藤はるか 足利 聖

六名小 放送委員会

◆デジタルアートグランプリ二〇〇八
(中学生・高校生クラス動画部門)
入選

竜海中 二年 平崎 明美

◆第十六回全国中学校駅伝大会

(男子の部)

第三位 六ツ美北中 駅伝部



◆ASIA GRAPH二〇〇八

優秀作品

竜海中 三年 石原 昌季

入選作品

竜海中 二年 滝川 慧

準入選作品

竜海中 三年 宮内 理香

◆第七回トム・ソーヤースク

ール企画コンテスト

トム・ソーヤースク 千両町小学校

◆第三十三回「私のアイデア

貯金箱」コンクール
すごいアイデアで賞

大門小 六年 山田 寛之

根石小 二年 長谷川裕花

◆第六回手を洗おう「みんなでき

レイキレイ」作品コンクール

優秀作品賞(標語)

六ツ美西部小六年 宮本 理花

◆駅伝カーニバル

(中学校男子の部)

優勝 六ツ美北中A

第二位 六ツ美北中B

第三位 美川 中

(中学校女子の部)

優勝 竜海中A

第二位 岩津 中

第三位 南 中

◆ジュニアバスケットボール大会

(男子)

第三位 北中学校

◆エコライフ川柳

知事賞 入選

夏山小 五年 深瀬 磨人

◆平成二十年年度FBC秋花壇

コンクール

東海ラジオ賞 細川小学校

名古屋鉄道賞 上地小学校

◆平成二十年年度FBC付帯事

業「私たちの学校花壇を描

いた絵」コンクール

愛知県教育委員会賞

形埜小 一年 星野里沙子

◆JA共済小中学生書道コンクール

(半紙の部 金賞)

愛知県農業協同組合中央会会長賞

美合小 五年 鈴木 康平

愛知県知事賞

北中 二年 宮本 真衣

(条幅の部 金賞)

日本農業新聞賞

矢作北中一年 太田和 滉

◆第四十二回県教育研究論文

佳作

六ツ美北部小 新名 絃子

大門小 阿部 祐子

形埜小 近藤美千代

岩津 中 山盛 誠治

◆愛知県読書感想文コンクール

愛知県教育委員会賞(全国へ)

矢作南小二年 西山 友唯

毎日新聞社奨励賞(全国へ)

上地小 三年 中西 駿

愛知県学校図書館研究会賞

連尺小 六年 不破蒼太郎

葵中 二年 大澤 彩佳

愛知図書館協会賞

矢作北小四年 橋本 彩花

竜南中 三年 小幡 菜由

葵中 三年 松谷英里子

◆岡崎市小中学校読書感想

文・読書感想画コンクール

市長賞(読書感想文の部)

矢作南小二年 西山 友唯

連尺小 六年 不破蒼太郎

葵中 二年 大澤 彩佳

市議会議長賞(読書感想文の部)

上地小 三年 中西 駿

矢作北小四年 橋本 彩花

常磐中 三年 黒田 侑希

岡崎ライオンズクラブ会長賞

(読書感想画の部)

上地小 二年 小倉 ふ紗

矢作北小五年 後藤 貫太

甲山中 三年 岩田 藍

第六十回岡崎市民駅伝競走大会

男子の部(三〇・〇km)

優勝 六ツ美北中A

二位 矢作 中

三位 美川中A

四位 葵中A

五位 甲山中A

六位 竜海中A

女子の部(一一・七km)

優勝 竜海中A

二位 矢作 中

三位 甲山中A

四位 矢作北中A

五位 岩津中A

六位 竜南中

・カ
ツ
ト
竜
南
中
笠
原
真
由
美

本の供養と感謝の会(図書館祭) (昭和49年)

写真提供：藤川小学校

これは太陽熱で聖火をともした後、各学級代表が古くなったり傷んだりした本やケース、カバーなどを燃やして供養している写真である。この後、本への黙とう、本年度購入図書を紹介、読書感想文の朗読、児童代表感謝の言葉と、感謝の会が続く。

この本の供養は、「消費時代の影響で本を乱雑に扱う傾向にあるので、物を愛する心を育てるのがねらい」と、当時、東海愛知新聞で紹介された。読書教育の必要性が増え始めたころのことで、物の大切さをこのような形で教え伝えていたのは貴重で価値のあることといえる。

フォトヒストリー

岡崎の教育



この本を

- *百歳からあなたへ 松原 泰道 ¥1,300
海竜社
- *男の論語(上) 童門 冬二 ¥600
PHP文庫
- *にくまれ役 野中 広務・野村 克也 ¥1,200
文藝春秋
- *立命館小学校メソッド 深谷 圭助 ¥560
宝島社文庫

*いのちのおはなし 日野原重明 ¥1,300
講談社

日野原氏は、97歳の聖路加国際病院の理事長兼現役の医師である。20年ほど前より、「いのちの授業」を小学生に行ってきた。本書はその教科書でもあり、絵本としてまとめられている。長年医療に携わり、人の生死をじっと見つめてきた体験を基に、命の尊さを子供たちに優しく語りかけている。命の教育が叫ばれる今、道徳の授業や読み聞かせを通して、子供たちに伝えたい一冊である。

恵田小 小柳 好直

親子で参加する「食育活動」が、いろいろな場面を取り組まれている。こういった機会は、食事の大切さや栄養バランスを学ぶのはもちろんだが、食を通して親子の貴重な「ふれあい」の場を提供してくれているとも言える。このような「ふれあい」を深めていくことが、実は「食育」の第一歩なのかもしれない。

シ オ ス ア

シクラメンの中でもかわいらしいミニシクラメンは、冬の寒さにとても強い。屋外で雪をかぶっても、元気に咲き続ける姿に感動を覚える。ふと、教室を彩るシクラメンと子供たちの姿が重なった。

この花のように、どんな寒さや困難にも負けない子供たちを育てていきたいと思う。

頭を低くし、「前を失礼します!」と、練習試合を観戦する私の前を、足早に通り過ぎていく折り目正しい子供たちの一団。

その日、会場に集まった中で、このチームの動きに胸を打たれた。この子供たちのチームには、しっかりとした指導者がいることがうかがわれた。

すでに決定している、二〇二一年七月二十四日、地上アナログ放送終了。

実は米国では、この二月に一足早く終了する。地上デジタル放送の魅力は、生活を豊かにする可能性にある。データ放送や緊急警告放送等、教育現場でも有効利用できるよう、我々も学習していかなければならない。